

「迫害を越えて」 40号P (五島列島 堂崎教会) フランシスコ 中山 一郎
 “迫害と殉教の300年、そして宣教師との感激の対面”



7月9日に「40周年の祝賀会」を迎えられた春日井教会の皆様にも、初代の神父さまが堂崎教会から赴任してこられたと聞き、記念にとこの絵を届けました。まだ肌寒い3月の五島を巡った旅で、行く先々の小さな部落ごとの似つかぬほどの立派な教会が印象的でした。迫害の歴史と信仰の深さの象徴として“長崎の教会群”が、ぜひ世界遺産に登録されることを期待したいと思います。

芸 術 上野さんの木彫りレリーフ



二ヶ月前の六月十一日(日)午後、第五回北区平和美術展の実行委員である上野進一さんに誘われ、区役所の講堂に立ち寄ってきた。上野さんは未信者だが、毎週日曜日、奥様とご一緒にミサに来ておられるので、ご存知の方も多いと思う。定年退職をされ、趣味の木彫りレリーフを本格的に学ばれ、最近ではドイツ語の勉強もされておられるという。

木彫りレリーフは、聖堂内の十字架の道行きで、その魅力に惹かれておられる方も多いと思うが、平面上での立体表現だけに、深く掘りすぎると、透かし彫りのように技術が誇示され、いやらしさが前面に出てしまう。写真では見えにくいのだが、上野さんの作品は、平面なのに不思議な立体感、奥行きを感じさせるレリーフ本来の味を持った作品に思えた。丸みを帯びた柔らかな木肌の温もりと、森を歩く少女の図柄が、失ってしまった素朴な感覚、ほのぼのとした優しさを取り戻してくれたように思えた。(後藤明憲)